



わかば

2018. 12. 8
第18-31号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

お迎え時間に関するお願い・・・3月まで下記の時間をお願いします

例年12月より3月上旬まで、地元バスケットボール協会の体育館一部使用が始まりました。平常時でも混雑している駐車場が、この期間はさらに混雑が予想されますので、保護者の皆様のご協力をお願い致します。

下記の通り、お迎えの時間差を設けています。決められた時間内にお迎えを終了し、下校をお願いいたします。但し、学校からの要請により学校にとどまる必要がある場合のみ例外とします。



【お子さんの学年とお迎えの時刻】

お子さんの学年	入校できる時間	お迎えの時間	下校時間
幼稚部	14:20	14:30	14:50
小1～4	14:50	15:05 (短縮時15:15)	15:20
小5以上	15:10	—	15:40

※ 小学部以上の複数の児童生徒が在籍するご家庭は、下の子の時間に合わせて下さい。

※ 幼稚部と他学部にも複数在籍する場合は、下校時間を15:20と致します。



校長授業参観の紹介・・・3年1組、5年2組

【3年1組 鮎澤学級 写真上】 国語科「言葉を分類する」の学習のねらいは、言葉には性質や役割があること及び語彙を豊かにすることです。エネルギー溢れる子どもたちのパワーに負けない、先生の気合のある元気な声と励ましや賞賛の声かけが印象的でした。言葉カードの準備、提示やペア活動などの授業展開は、子どもたちの学習意欲を喚起させていて、子どもたちの実態に即していると思いました。

【5年2組 久保学級 写真下】 国語科「分かりやすく伝える」の学習は、パソコンを活用した漢字の「フラッシュ読み」から始まりました。瞬時に提示される漢字のフラッシュカードを素早く読み上げていくわけですが、子どもたちは実に手慣れた感じで素晴らしかったです。分かりやすく伝えるうえで大事なことはなにかと、学習のみとおしを持たせるために、5年当初から今までの自分自身のノートを教材化した導入は、実に有効で感心しました。





児童生徒の作品紹介 25

今回は、3年生の秋をとらえた作文をご紹介します。次回は、2年生、3年生の作文を予定しています。 校長 信國 寿敏



		秋まつたけの秋
わ	た	名前 菅 優 菜
る	け	わたしはまつたけの秋に
か	が	したいと思えます。
ら	り	なぜかとうとうまつたけは
で	は	火にこそもおいしいし、ま
ま	に	たけがりにほくさでトンネ
も	ル	になったトンネルの中をく
	ぐ	わるからでも

3年 菅 優菜

		秋キノこの秋
て	し	名前 アイヴァセン ヘンリー
す	よ	ぼくはキノこの秋に
	う	しようと思えます。
	と	キノこはおいしい
	は	ないかにかいます。
	い	ぼくは、そのとキノこの
	い	ことをいっぱい食べます。
	い	そのぐらいおいしい
	い	です。

3年 アイヴァセン ヘンリー

		秋ハロウィンの秋
		名前 小 山 慶 士
		ぼくはハロウィンの秋にしたい
		と思えます。理由は、いっぱいキャンデー
		とチョコレートもらえるし自分の
		コスチュームをえらぶからです。
		そして、ぼくは今年「ゴロ」のウオヤ
		になります。

3年 小山 慶士

		秋人食の秋
		名前 大 洞 成 未
		わたしは感じの秋にしたいと
		思えます。なぜかとうとう秋には、
		おいしい人食べもの、じま、さんみ
		いっぱい人食べれるのはかきまのおか
		だからと思えます。わたしたちが
		生きているのは今、食べもの、水
		もあるからです。

3年 大洞 成未



日本では、一般的に秋は、「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」などと言われます。オレゴンは、概ね日本と気候風土が似ているようで、四季折々の食べ物や催しなどを楽しむことができます。例えば、きのこ、特にマツタケなどは日本では眺めるだけの高級食材でしたが、こちらでは比較的手ごろに食することができます。山の豊かな恵みであるきのこ鍋はいいですね。山の恵み、川や海の恵み、大地の恵みなどに感謝して食べるといっそう美味しさが増すようです。

日本のニュースでは、ハロウィンでのゴミ問題や軽トラ事件の報道が多くありましたが、本来は作文にもあるように、子どもの純粋なワクワクする楽しみではないかと思えます。

第39回海外子女文芸作品コンクール…特選入賞者1名(詩の部門)、優秀入賞者1名(詩の部門)

今夏に実施された平成30年度海外子女文芸作文コンクールの入賞、入選の公表がありました。本校からは2名が入賞、入選の榮譽に輝いたことをご報告するとともに、作品をご紹介します。今回のコンクールに応募した全ての児童生徒並びに、入賞、入選した2名の生徒に感謝とお祝いを申し上げます。

今後は、来年度の本コンクールを目指して、さまざまな出来事、出会い、旅行などの感動や感じたこと、思ったことなどをメモに残したり、映像に収めたりして来年度に備えていただければと思います。

- 【詩の部門】 特選 中学部1年 金井 裕太郎 「つくし」 ※全応募者から5名入賞
- 【詩の部門】 優秀 中学部1年 前原 美優 「孤独の対義語」 ※全中1応募者から2名入選



海外子女文芸作品コンクール

【詩の部門】

特選

つくし

中学一年

金井 裕太郎

つくし

土筆と書く

春の筆だ

野原にも

筆が生えてきた

もう

春だ

この筆で

春を

そして一年を

さらさらと描いていく

海外子女文芸作品コンクール

【詩の部門】

優秀

孤独の対義語

中学一年

前原 美優

孤独の対義語とは何なのだろうか

ある人はこう言った

孤独の対義語は連帯なのだ

一人で責任を負うのが孤独

だから皆で責任を負うのが連帯なのだ

孤独とは一人で何かをすること

だから、連帯が孤独の対義語なのだ

だが、ある人はこう言った

孤独の対義語は無知なのだ

人は色々な情報を知りすぎると

孤独になっていくのだ

だから、孤独の対義語は無知なのだ

私はこう思った

孤独の対義語は仲間なのではないかと

仲間を裏切ったとどり着いた出口が

孤独なのではないかと

孤独とは自分一人だけのこと

裏切りが孤独を生み出すのではないかと



本年度は、詩、短歌、俳句、作文の4部門に4万点を超える応募があり、特選は各部門から5名が選ばれています。また、優秀や佳作は、4部門で約200名が入選しています。

さて、つくしはまさに春の訪れを告げる実に身近な植物です。字のごとく、つくしを筆にみたく、これからの暖かな希望に満ちた春を描く、爽やかな春風が吹き抜けていくような詩になっていることや春にふさわしい柔らかく弾むようなリズムカルな文も高い評価ではないでしょうか。

また、「孤独の対義語」は、現代の若者が抱えている携帯等で生じる対人関係の問題、言いようのない孤独感を連想させます。「私はこう思った」と結論付けるように、心から信頼できるようなよき仲間が大事であること、心と心が通い合うよき仲間の信頼を失うと孤独になってしまうと、警鐘を鳴らすかのような詩であることが、高く評価されたのではないかと思います。